

## 2歳児のテレビ接触実態とその規定要因の可能性

一色伸夫

### 1. 目的

子どもたちの暮らしには、テレビ・ビデオ・テレビゲームなどの映像メディアが深く入りこんでいる。こうした映像メディアが、子どもの心身の成長・発達にどのような影響を与えているのかを検討するには、視聴時間といった量的な側面だけでなく、接触しているメディアの種類とその内容、映像や音声の使い方、子どもへの見せ方など親のかかわり方、親のメディア観など多角的な視点からの検討が必要になる。そこで、2歳児のテレビ接触実態をもとにそれを規定する要因を探り、映像メディアへの接触が子どもの成長・発達にどのように影響を与えるのか、今後の分析に結びつく項目の可能性について論考した。

### 2. 方法

対象者：平成14年2月～7月に川崎市で生まれた2歳児1244人

調査内容：映像メディア視聴日誌（15分刻みの24時間日記式）

質問紙による郵送配付・回収法（2回に分けて実施）

調査項目：映像メディア視聴実態調査（映像メディア視聴日誌記入方式）（回収率：85%）

家族の生活とメディア接触に関する質問紙調査（回収率：89%）

言語発達調査（マッカーサー乳幼児言語発達質問紙調査）（回収率：88%）

### 3. 分析

(1) 2歳児の全映像メディアの接触時間は、1日平均3時間30分で、この時間量全体は、0歳時点の3時間37分、1歳時点の4時間2分と比較すると減少した。メディア別には、テレビが1日平均2時間44分で1歳児の時の3時間23分に比べ39分減少している。ただし、テレビ接触時間を「専念」「ながら」「ついているだけ」とわけて見直すと、年々減少しているのは「ついているだけ」の時間である。

(2) 子どもを取り巻く様々な要因と、メディア接触時間に関連する変数との関係を検討したところ、母親の監督機能、母親のテレビ観、子どものビデオの見方、子どもの生活習慣、子どもの協調性・共感性、子どもの友だち関係、母親の子どもへの信頼感などさまざまな項目において、メディア接触時間との関連が見られた。

### 4. 結論

(1) 「子どものいる部屋でテレビはついているだけの状態」は年齢があがるとともに減少している。テレビ視聴の定義内容については、子どもの成長にあわせて修正・検討する必要があると思われる。

(2) メディア接触時間は、子どもをとりまく様々な要因と関わりを持っている可能性が示された。